

第2章 施策別展開方針

政策Ⅴ【教育文化】

次世代を担う人と文化 を育むまちづくり

施策1

未来をたくましく生きる力を 育む教育の推進

現状と 課題

- ① 情報化、価値観の多様化など社会情勢の変化が著しいなか、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の調和のとれた「生きる力」を育むことが求められており、これまで、連携型小中一貫教育※1を最も重要な柱として取り組み、不登校や問題行動等の減少など中一ギャップ※2の解消や学力向上等に一定の成果をあげてきました。

今後も引き続き小中一貫教育を推進するとともに、活用する力を高めるための授業改善や指導力の向上、家庭学習の質の向上など、学校と家庭が一体となった取組を推進していく必要があります。

- ② ICTの利活用教育、薩摩川内元気塾、英語力向上プラン事業の推進など地域に根ざした本市独自の魅力ある教育を実施しており、今後も改善しながら更に推進していく必要があります。

いじめのない学校づくりの取組や命の大切さ、いじめ問題を考える授業の公開、地域や家庭との連携などにより、「行きたい学校」づくりを推進していく必要があります。

一校一運動による体力づくりなど健康教育を実施しており、体力テストでは、県平均を上回るまでに向上しています。全国と比較すると更に改善や指導の充実が求められています。また、生活環境の変化に伴い、運動する子どもとしない子どもの二極化や、生活習慣の乱れなどが指摘されているなかで、家庭や地域、関係機関等と連携しながら、体力向上や健康の保持増進に向けた取組を充実させていく必要があります。

- ③ 近年、様々な自然災害等が発生しており、その対応に向けたきめ細かな指導が教育現場でも求められており、中学校でのAED※3を用いた救命講習や地域の実情に応じた避難訓練など安全教育や防災教育の充実を図る必要があります。

学校施設については、耐震改修を平成27年度までに完了し、今後も老朽化が進む施設の計画的な改修・改築を推進するとともに、教育内容に応じた設備等の充実を図っていく必要があります。

平成22年12月に小・中学校の再編に関する基本方針を策定してから5年が経過しようとしており、その後の児童生徒数や社会情勢も変化しています。将来を見据え、児童生徒が磨き高め合うことができる望ましい教育環境づくりを進める必要があります。

※1 小中一貫教育：小学校と中学校の義務教育9年間に連続性を持たせて行う教育のこと。

※2 中一ギャップ：小学校から中学校に進学したときに、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、いじめが増加したり不登校になったりする現象。

※3 AED：心臓がけいれんして血液を全身に送り出せない状態（心停止）になったときに、電気ショックを与えて正常な働きに戻す医療機器。



中学校理科教諭による小学校での授業交流



小学校綱引競技大会での子どもたちの活躍

めざす姿

充実した環境のもとで、知・徳・体の調和のとれた
「未来をたくましく生きる力」が育まれている。

成果指標
と目標値

成果指標	単位	現状値	目標値
学校に行くことが楽しいと感じる 児童生徒の割合	%	96.1	100
標準学力検査(NRT)の偏差値平均結果 (全国平均を50とした場合)	—	小学校:51.0 中学校:49.0	小学校:52.0 中学校:51.0
体力・運動能力調査の全国との比較 (全国を100とした場合の比較)	—	97.67	100
フッ化物洗口実施校 ※H31の学校数は、H27の全小中学校数	校	19	48
中学生の不登校生徒の出現率 (不登校生徒数／全生徒数)	%	1.57	1.00

施策1 未来をたくましく生きる力を育む教育の推進

施策の方向性

① 小中一貫教育の推進

- ◆ 中一ギャップの解消や学力向上等のために、小学校と中学校が相互に連携・補完し合いながら小中一貫教育を推進し、ふるさと・コミュニケーション科を中心に据え、地域との連携によるふるさと教育の充実に努めます。
- ◆ 9年間を見通した各教科のカリキュラムに基づく学力向上を図りながら、豊かな人間関係を築く力や自分の思いや考えを適切に表現する力を身に付けていくことを重点的に取り組みます。

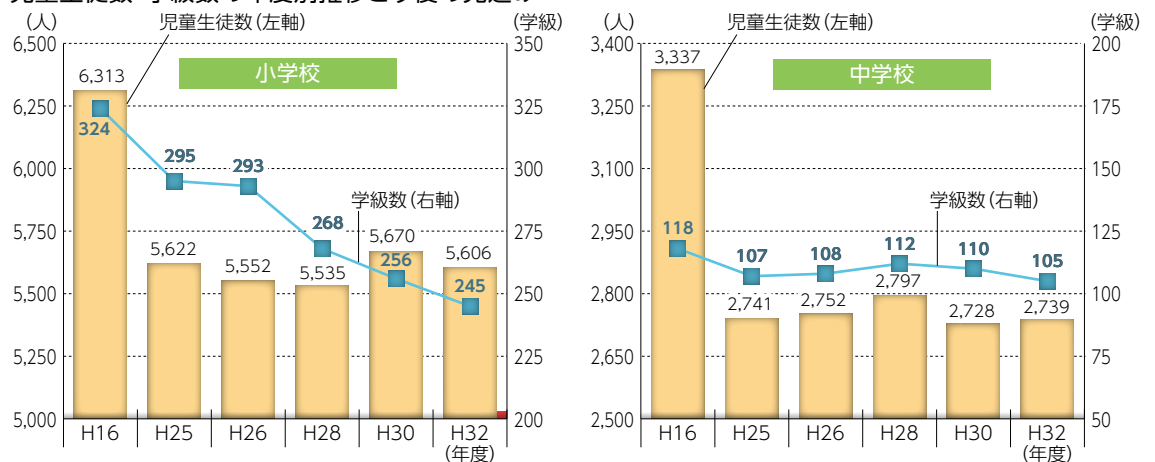
② 知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の推進

- ◆ 基礎・基本と活用する力を育むために、自ら学び、磨き高め合う授業づくりに努めます。
- ◆ ICT利活用^{※4}や小学校からの英語教育の推進など時代の変化に対応した教育を推進します。
- ◆ いじめのない学校づくりの取組や命の大切さ、いじめ問題を考える授業を実施・公開します。
- ◆ スクールソーシャルワーカー^{※5}や特別支援教育支援員の配置、適応指導教室等の相談体制の充実に取り組みます。
- ◆ 「一校一運動」に取り組むとともに、地域の特色や郷土の伝統を生かした体力・気力づくり、保健指導、食に関する指導、安全教育、防災教育の充実に努めます。
- ◆ むし歯予防の観点から、幼稚園・小中学校でフッ化物洗口事業を実施できるよう取り組みます。
- ◆ 幼保小連携、交流を積極的に行い、小1プロブレム^{※6}の解消に努めます。
- ◆ 大学等の高等教育機関との協力による教育の充実に努めます。

③ 教育環境の充実

- ◆ 安全・安心な教育環境を確保するため、施設の計画的な改修・改築を進めます。
- ◆ 東郷地域では、小中一貫校の施設整備を進めます。
- ◆ 教育内容に応じた教具・教材の整備やICT関連設備等の充実に努めます。
- ◆ 児童生徒にとって望ましい学校教育環境を整えるために、地域の実情や意見等を踏まえ、学校再編を更に進めます。

児童生徒数・学級数の年度別推移と今後の見込み



資料：学校教育課

※4 ICT 利活用：パソコンや電子黒板等の情報通信技術を活用することにより、グラフや資料を効果的に使用し、授業の効率化を図ること。

※5 スクールソーシャルワーカー：子ども本人と向き合うだけでなく、家庭や行政、福祉関係施設など、外部機関と連携しながら、子どもを取り巻く環境を調整する人。

施策体系



市民と行政の役割分担

市民	市民	学校教育に対する認識や理解を深め、教育活動に協力しましょう。 親子のふれあいを深め、家庭学習(10分×学年+30分以上)の充実や基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん、笑顔であいさつ・お手伝い)の確立に努め、家庭の教育力を高めましょう。
	地域・団体	学校教育に対する理解を深め、教育活動を支援しましょう。 地域の自然や伝統、地域の良さを生かした行事や活動を行い、地域ぐるみで子どもを育てましょう。
	学校	学校教育目標の具現化に向けて、教職員の指導力の向上を図り、信頼される学校づくりに取り組みましょう。 ふるさと教育を推進し、地域とともにある学校づくりに取り組みましょう。
行政		小中一貫教育を柱とした教育施策を展開します。
		子どもたちや保護者等へのきめ細かな支援体制づくりに努めます。
		時代に適応した学校環境の整備に努めます。
		学校・家庭・地域、関係機関等を結ぶネットワークづくりに取り組みます。

※6 小1プロブレム：小学校に入学したばかりの1年生が、集団行動がとれない・授業中に座ってられない・先生の話を受けないなど、学校生活になじめない状態が続くこと。

第2章 施策別展開方針

政策Ⅴ【教育文化】

次世代を担う人と文化を育むまちづくり

施策2

地域全体で子どもを守り育てる環境整備

現状と課題

- ① 非行の防止や不審者から青少年を守るため、地域において青色パトロール車による街頭補導などを実施しているなか、依然として声かけ事案が発生するなど、今後も、地域ぐるみで青少年の健全育成を進める必要があります。

地区青少年健全育成会においては、少子化等に伴い、保護者などの青少年健全育成活動への参加者は減少傾向にあり、活動自体が低下しており、併せて学校外での活動機会や活動成果を発表する場が不足し、情報交換の場が減少することで参加意欲の減退へとつながっています。

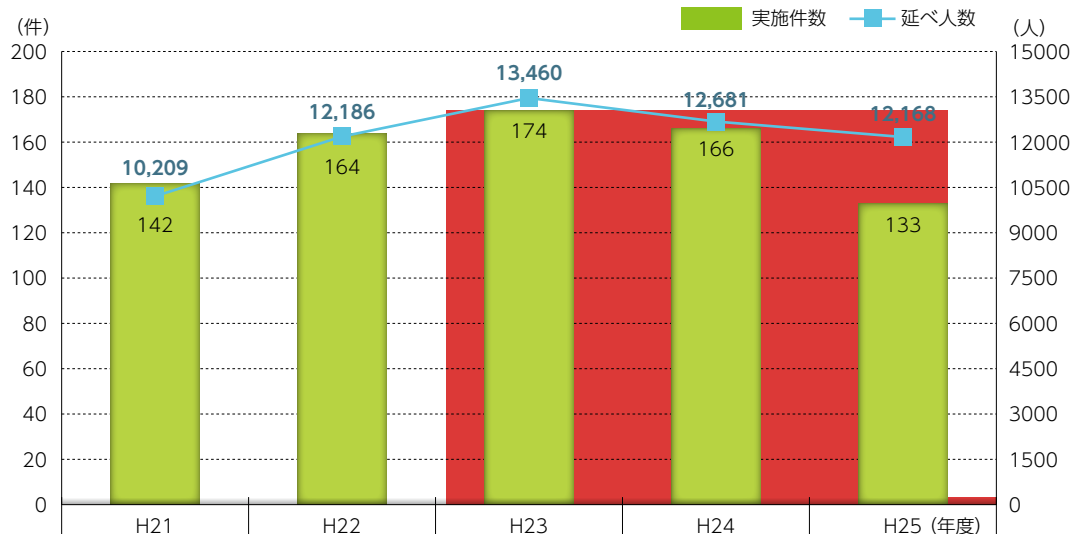
- ② 地域の中の学校、地域が支える学校、地域全体で子どもを守り育てるという意識を醸成し、地域での声かけを含め、地区青少年健全育成会の活動等、地域での教育力を充実させる必要があります。

また、様々な技能・技術、専門的知識を持った地域の人材を活用した学校を支えるための学校支援ボランティア活動の充実や、様々な教育的課題に向き合う体制を築くために、学校・家庭・地域の全ての関係者が一丸となって、協働して教育を推進する仕組みづくりが求められています。

少年自然の家では、野外活動やリーダー育成など様々な体験活動や研修、宿泊学習の受け入れなど実施しており、今後、更に、利用者が満足するプログラムの開発や広報活動の充実、蓄積している体験学習のノウハウを生かした指導者の指導力向上を図る必要があります。

- ③ 青少年が抱える悩みを解消するため、少年愛護センターを中心として悩み相談に当たっているなか、その他の相談窓口等も増えてきたことで、センターへの相談件数自体は減少していますが、SNS^{※1}でのいじめ等、内容が多様化・複雑化していることから、相談員の資質向上とともに、青少年市民会議・青少年育成会、その他民間事業所も含め関係機関と総合的なネットワークを構築し、連携を強化する必要があります。

青少年（健全）育成会活動実績の推移



資料：社会教育課

※1 SNS：個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。



青色パトロール車による街頭補導



学校支援ボランティアによる音楽指導



少年自然の家 野外炊飯

めざす姿

家庭・学校・地域が連携・協力し合って、次世代を担う
青少年を守り育てている。

成果指標
と目標値

成果指標	単位	現状値	目標値
[市民アンケート] 青少年の健全育成が図られていると 思う市民の割合	%	70	 (+5%以上)
コミュニティスクール(学校運営協議会)の 設置数	中学校区	1	5
学校支援ボランティアの登録者数、実施件数	人 件	222 81	400 350
地域の青少年(健全)育成会の活動回数、 活動人数	回 人	133 12,168	140 13,000

施策2 地域全体で子どもを守り育てる環境整備

施策の 方向性

① 地域の教育力の向上

- ◆ それぞれの地域での青少年育成会等の活動を拡大させるなど、保護者、地域、学校ぐるみで、青少年を育てる環境づくりを進めます。
- ◆ 街頭補導や地域で実施される青少年育成活動事業の充実を図ります。
- ◆ 地域の人材を生かした学校支援ボランティア事業を推進します。
- ◆ 地域や保護者等が学校づくりに参画するコミュニティスクール(学校運営協議会)を中学校区に設置し、地域とともにある学校づくりを積極的に推進します。

② 指導者の指導力向上

- ◆ 関係機関や団体と連携した研修会、少年自然の家を活用した体験活動指導者養成講座の実施など、青少年育成指導者の研修機会の拡充を図ります。
- ◆ 青少年育成の日のつどいや愛護委員連絡会の内容充実、地区ごとの生涯学習推進大会等の活用など、青少年育成指導者の交流機会の拡充を図ります。

③ 総合的なネットワークの連携強化

- ◆ 青少年育成市民会議の構成員の拡大を図り、総合的なネットワークの構築による関係機関との連携を強化することで、地域社会全体で青少年の育成に取り組みます。



青少年育成会とスクールガード、PTAが連携した交通安全活動

施策体系

市民と
行政の
役割分担

市民

市民	子育て力の向上に努めましょう。
	親子で地域活動に参加しましょう。
	自らの技能や知識、生涯学習の成果を生かして学校支援ボランティアに登録しましょう。
事業者	補導活動※ ² の推進に努めましょう。
	地域貢献の一貫として学校支援ボランティアなど地域の学校を支援する活動に参加しましょう。
	市民会議の活動方針に沿って、地域や行政と連携し、青少年の育成に努めましょう。
地域・団体	世代間交流による地域での野外活動、スポーツ・文化活動などを通して、青少年健全育成活動の推進に努めましょう。
	補導活動の推進に努めましょう。
	地域全体で子どもたちを守り育てようとする気風を高めましょう。
	郷土の伝統芸能を積極的に子どもたちに伝承させるなど、地域の教育力の向上に努めましょう。
	市民会議の活動方針に沿って、事業所や行政と連携し、青少年の育成に努めましょう。

行政

青少年の社会参加活動の推進、青少年育成団体の支援、青少年健全育成環境の整備に取り組みます。

地域の人材（個人、団体、事業所等）を生かしたコミュニティスクールの設置や学校支援ボランティア活動の充実に努めます。

市民会議の活動方針に沿って、地域や事業所と連携し、青少年の育成に努めます。

※2 補導活動：非行の芽を摘み取り正しく導くことにより、青少年自らが自身を律し、自立した大人に成長することを目的とした活動のこと。

第2章 施策別展開方針

政策Ⅴ【教育文化】

次世代を担う人と文化を育むまちづくり

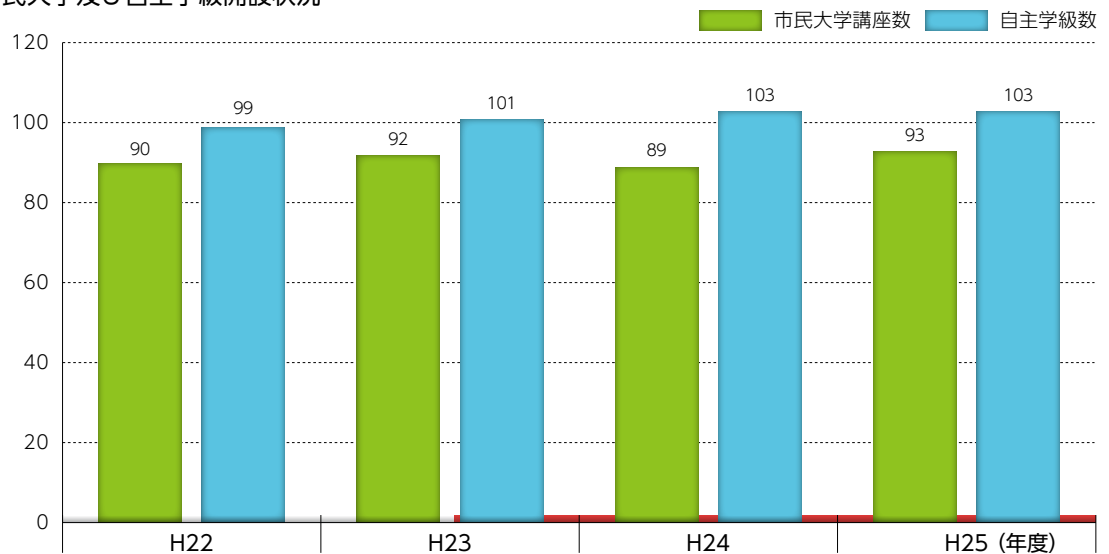
施策3

学び活かす生涯学習と多文化共生の推進

現状と課題

- ① 生涯学習は、誰もがその年齢や趣味に応じて学ぶことができるよう、様々な機会が準備されていますが、参加者が高齢化、固定化し、学習ニーズがあっても人数が集まらない、適切な講師がいないなどの理由により、新たな講座や学級が開講できていない状況があります。また、公民館毎に開設講座が異なるため、希望する講座が近くの公民館で受けられないといった声もあり、参加者の動向や利用者のニーズに合わせて見直す必要があります。
- ② 人材バンク「すてきびと」を設置し、人材確保に努めていますが、新規登録や更新が進まず、十分に活用されていないため、学習ニーズのある人と、適切な講師を引き合わせるコーディネート機能を構築するとともに、社会教育団体や家庭教育学級の活動を促進するため、豊富な経験や専門的知識を有する指導者を育成し、人材バンク登録を進め、その活動への支援を行う必要があります。
- ③ 社会環境や家庭環境の複雑化に伴い、幼児や児童の虐待、規則正しい生活習慣やしつけの欠如、不登校や引きこもり、いじめ問題など子どもに関する様々な問題が顕在化してきたことに加え、問題解決のために家庭教育の質的向上に大きな期待が寄せられていることから、社会教育団体や家庭教育学級への活動支援など、更に積極的に取り組む必要があります。
- ④ 国際理解を広めるため、中国江蘇省常熟市・韓国慶尚南道昌寧郡との友好都市交流や、国際交流協会を中心にした、外国語講座や市内在住外国人のための日本語講座等を実施していますが、市民の国際理解、国際協力・多文化共生※1の意識は高くないのが現状です。このため、国際交流に係る関係機関・団体を育成、連携させ、外国語講座受講生や、地区コミュニティ協議会、学校での異文化交流の拡大を図るとともに、市内在住外国人が日本語講座等に参加しやすい環境づくりを進めるなど、国際理解を深め多文化共生の普及啓発を行う必要があります。

市民大学及び自主学級開設状況



資料：社会教育課

※1 多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。



生涯学習推進本部会議



韓国昌寧郡との友好都市協定調印式

めざす姿

いつでも・どこでも学ぶ機会が提供され、日常生活で生きがいや充実感を感じており、併せて、国際理解が進んでいる。

成果指標
と目標値

成果指標	単位	現状値	目標値
〔市民アンケート〕 日頃、生涯学習に取り組み、生きがいや充実感を感じている市民の割合	%	52	 (+15%以上)
〔市民アンケート〕 生涯学習に取り組みやすい環境が整っていると思う市民の割合	%	64	 (+10%以上)
〔市民アンケート〕 国際理解が進んでいると感じている市民の割合	%	31.7	 (+20%以上)

施策3 学び活かす生涯学習と多文化共生の推進

施策の 方向性

① 生涯学習の展開とネットワーク化

- ◆ 地域全体で生涯学習を進めるための環境整備と生涯学習成果の活用を促進します。
- ◆ 市民への生涯学習情報の提供及び学習相談体制の充実を図ります。
- ◆ 中央公民館及び地域公民館を拠点として、市内全域の地区コミュニティセンターとのネットワーク化を進め、地域での生涯学習活動の更なる充実を図ります。

② 生涯学習を進めるコーディネート機能の充実

- ◆ 人材バンク「すてきびと」への登録を促進し、普及・活用を推進します。
- ◆ 社会教育団体等から指導者養成研修会への参加を拡充し、専門的知識を有する指導者の育成とその活動支援の充実を図ります。

③ 家庭の教育力の向上

- ◆ 核家族化など社会環境の変化による家庭の教育力の低下を補えるよう、地域や各世代が支える支援体制を構築します。

④ 多文化共生の推進

- ◆ 友好都市交流や市民、国際交流団体による幅広い国際交流活動を促進し、市民の国際理解を深め国際協力意識の高揚を図ります。
- ◆ 国際化へ対応するため、国際交流活動を通じ、多文化共生の醸成を図ります。

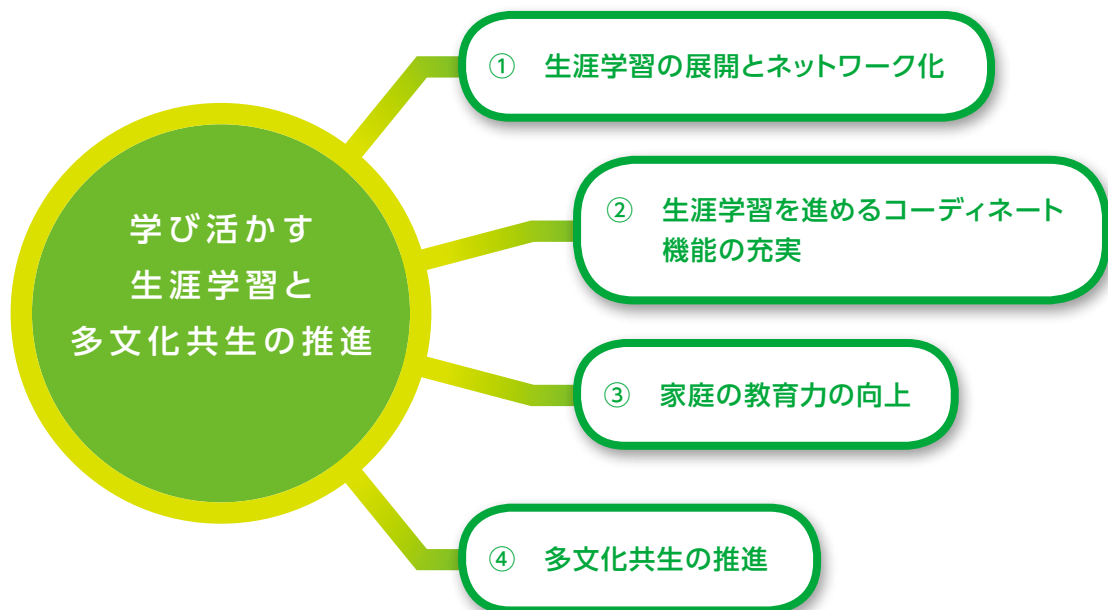


中央公民館子育てサロン「おちゃべり」



自主学級の成果発表風景

施策体系



市民と行政の役割分担

市民	市民	地域づくり活動へ積極的に参加し、習得した知識や技術を人材バンク等に登録しながら、地域社会へ還元しましょう。
		身近な公民館や図書館を積極的に活用しましょう。
		家庭で、子どもの生活や健康、学習習慣づくりに努めましょう。
		国際理解を深め、交流を進めましょう。
	事業者	家庭教育における保護者の役割や重要性を理解し、雇用環境の整備に努めましょう。
		市が実施する家庭教育支援施策に積極的に協力しましょう。
	地域・団体	国際理解を深めましょう。
		地区コミュニティセンターを活用した生涯学習活動を地域住民が主体となって進めましょう。
		地域の行事等を通して子どもの健全な育成を支援しましょう。
行政	国際理解を深めるため、交流会や各種講座の開催に取り組みましょう。	
	地域の人的・物的資源の発掘と連携、保存と活用に努めます。	
	家庭教育についての情報の提供や技術的な助言など、必要な支援を行います。	

第2章 施策別展開方針

政策Ⅴ【教育文化】

次世代を担う人と文化を育むまちづくり

施策4

誇りと愛着のある地域文化の保存・継承・活用

現状と課題

- ① 本市は、南九州の中心地として薩摩国府が設置された古い歴史を有しており、ニニギノミコト伝説の可愛山陵、国指定史跡「薩摩国分寺跡」・「清色城跡」、国指定天然記念物「蘭牟田池の泥炭形成植物群落」・「甕島長目の浜及び潟湖群の植物群落」、国指定有形文化財「旧増田家住宅」、国選定伝統的建造物群保存地区「薩摩川内市入来麓伝統的建造物群保存地区」、国指定無形民俗文化財「東郷文弥節人形浄瑠璃」・「甕島のトシドン（ユネスコ無形文化遺産登録）」、400年の歴史を誇る県指定無形民俗文化財「川内大綱引」などの文化財や地域で受け継がれてきた郷土芸能が数多く存在しています。

こうした歴史・文化といった、かけがえのない財産の保存・継承に対する市民の理解を深め、意識を高める必要があります。

人口減少・高齢化が進むなかでこれらを保存し、更に次の世代へ伝承していくためには、担い手の育成・確保が大きな課題になっています。

また、蘭牟田池、入来麓旧増田家住宅、甕島の長目の浜や鹿島断崖、恐竜化石なども、地域の成り立ちや歴史等を知ることができる貴重な文化的資源であり、これら各地の文化的財産を市民や地域住民が再認識するなかで、適切に保存するとともに、学術的資源としてだけでなく、優れた自然や景勝地など一体的に、観光資源としても幅広く活用を図り、地域文化への愛着を深める必要があります。

- ② 川内歴史資料館、川内まごころ文学館、入来麓旧増田家住宅などの施設については、歴史等の学習拠点として位置付け、その積極的な利用を促進する必要があります。

また、文化的行事やイベントの開催を通して、音楽や芸術などに触れ・参加する機会を増やし、市民誰もが芸術文化活動を楽しめる環境を整えることが求められています。



甕島長目の浜及び潟湖群の植物群落



国指定史跡「薩摩国分寺跡」

めざす姿

地域の文化を身近に感じ、日頃から芸術文化に触れ親しんでいる。

成果指標
と目標値

成果指標	単位	現状値	目標値
[市民アンケート] 地域の歴史や文化に関心があると回答した市民の割合	%	65	 (+10%以上)
[市民アンケート] 文化・芸術に親しむ環境が整っていると思う市民の割合	%	55	 (+15%以上)
川内歴史資料館・川内まごころ文学館・入来麓旧増田家住宅等の入館者数	人	34,000	37,000

施策4 誇りと愛着のある地域文化の保存・継承・活用

施策の 方向性

① 文化財等の保存・継承・活用

- ◆ 伝統芸能・行事、文化財等を生かしたまちづくりを振興するほか、地域文化の情報発信を促進します。
- ◆ 指定文化財等の保存・活用を図るため、この文化的価値を広く一般市民に周知するとともに、保存会だけでなく地域や市民、事業者等による支援体制の構築を図ります。
- ◆ 甑島で発見された恐竜化石については、学術的な研究を進めます。併せて、長目の浜や鹿島断崖と一体となった観光資源としての活用を図ります。

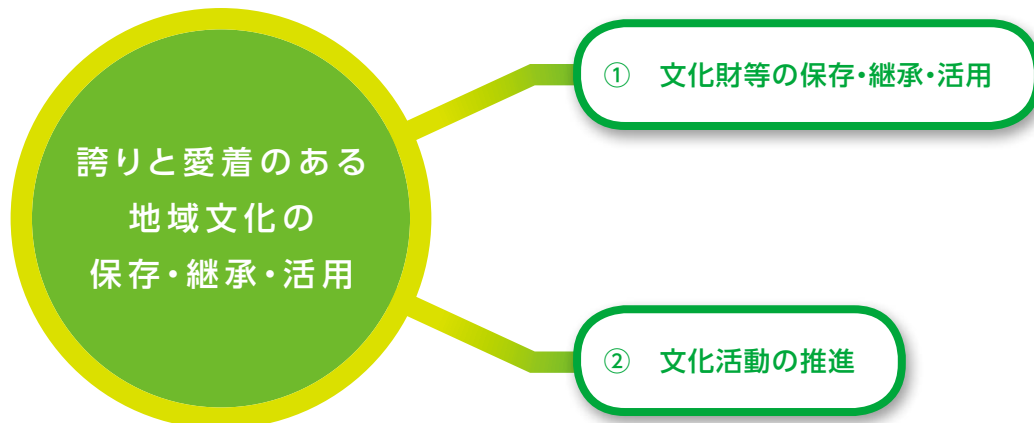
② 文化活動の推進

- ◆ 郷土芸能や文化協会を始めとする各団体で実施されている文化・芸術活動を発表する機会を提供し、併せて多くの市民が触れることができるよう、周知・広報を充実します。また、自然環境や風土を生かした新たな文化・芸術活動を発掘し、創造への支援を行います。
- ◆ 川内歴史資料館、川内まごころ文学館、入来麓旧増田家住宅等については、魅力ある展示並びに企画展の充実や関連イベント等の連携により、特に若い世代の利活用を推進します。



国指定無形民俗文化財「東郷文弥節人形浄瑠璃」

施策体系



市民と行政の役割分担

市民

市民	文化芸術の担い手として積極的な文化芸術の理解、参加、創造に努めましょう。
	伝統行事や文化財保護活動へ積極的に参加しましょう。
事業者	文化芸術の振興と発展、ボランティアリーダーの育成支援の推進に努めましょう。
	文化財保護活動への参加と支援に努めましょう。
地域・団体	地域の文化芸術活動の理解、活用に努めましょう。
	伝統行事に参加しやすい環境づくりに取り組みましょう。

行政

文化芸術を創造、享受できる環境の整備に努めます。

個性と魅力にあふれた文化芸術の振興に取り組みます。

文化財少年団活動と出前講座等を通じて、ボランティアリーダーの育成を支援します。

川内歴史資料館、川内まごころ文学館、入来麓旧増田家住宅等を活用した学習機会の充実と文化財保護活動を支援します。

第2章 施策別展開方針

政策Ⅴ【教育文化】

次世代を担う人と文化を育むまちづくり

施策5 スポーツ活動を楽しむ環境整備

現状と課題

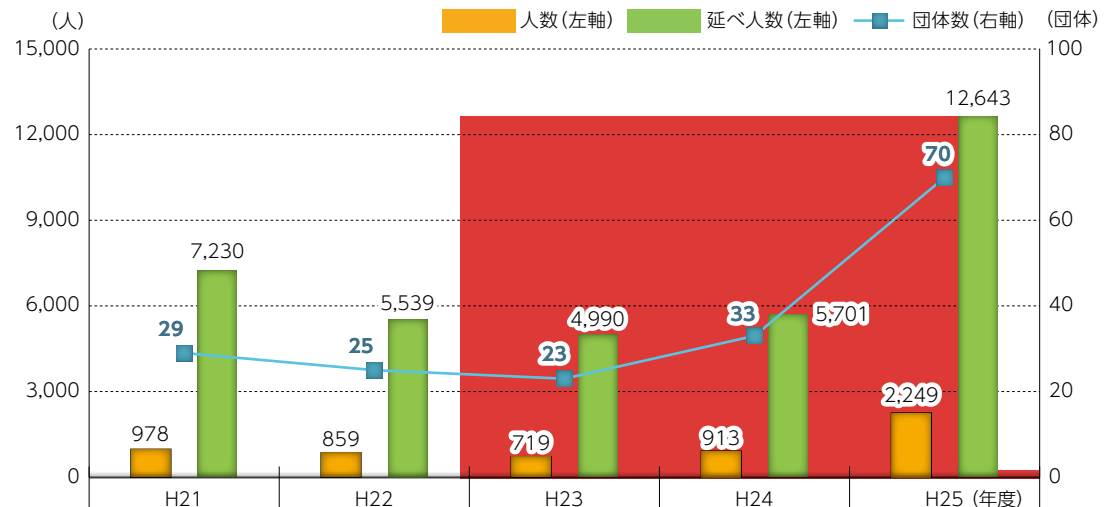
① 市民誰もがスポーツを通じて健康を維持し、交流の輪を広げ、健やかで豊かに暮らせるよう、総合運動公園を始め、多くの社会体育施設が整備されています。

高齢化が進むなかで健康寿命を延ばすためには、各種健康スポーツ教室の開催などを通じ、スポーツに慣れ親しみ、身近にスポーツを楽しむ生涯スポーツを更に推進していく必要があります。

②③ 日本オリンピック委員会からバレーボール競技強化センターとして認定されたサンアリーナせんだい、スポーツ交流研修センター等については、合宿先としての評価が高く、全日本バレーボールチームを始め、トッププロや実業団等が合宿に利用しています。

平成32年には、東京オリンピック・パラリンピック、第75回国民体育大会鹿児島大会の開催が予定されていることから、これらの競技に関連する合宿やスポーツ大会等の誘致によって、高いレベルのスポーツを観戦する機会を増やし、スポーツへの関心を高めることや競技力の向上などを図っていく必要があります。

年度別スポーツ合宿状況



資料：市民スポーツ課

年度別健康スポーツ教室状況

内訳	年度	H21	H22	H23	H24	H25
教室数		5	6	7	5	5
回数		97	74	84	84	84
延参加者		1,154	1,197	1,389	1,416	1,089
参加者／1回		11.89	16.18	16.54	16.86	12.96

資料：市民スポーツ課



全日本女子バレーボールチーム合宿時の紅白戦



全日本男子バレーボールチームによるスポーツ教室

めざす姿

市民が気軽にスポーツに親しむ環境が整い、日常的にスポーツを楽しんでいる。

成果指標と目標値

成果指標	単位	現状値	目標値
[市民アンケート] 運動やスポーツを楽しむ環境が整っていると思う市民の割合	%	73	 (+5%以上)
[市民アンケート] 日頃、運動やスポーツを楽しんでいる市民の割合(※ 週1回以上)	%	36	 (+20%以上)
合宿団体数	団体	70	100

施策5 スポーツ活動を楽しむ環境整備

施策の 方向性

① 生涯スポーツの推進

- ◆ 健康の維持増進や体力づくりを目的に、市民がいつでも・どこでも・だれでも気軽にスポーツを楽しむことができるよう、各種健康スポーツ教室の開催や地域スポーツクラブの育成などに取り組みます。
- ◆ 地区コミュニティ協議会やスポーツ推進委員と連携し、地域のスポーツ・レクリエーション活動などの環境づくりを促進します。

② 競技スポーツの振興

- ◆ 競技人口の底辺拡大と競技力の向上を図るため、特定非営利活動法人薩摩川内市体育協会などの関係団体と連携して、指導者の育成と指導体制の充実に努めます。
- ◆ トッププロ、実業団等の合宿誘致やスポーツ大会の誘致に努めることにより競技スポーツの振興を図ります。

③ スポーツ振興による地域の活性化

- ◆ スポーツ合宿誘致やスポーツイベントの開催等を通して、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。



愛知製鋼陸上競技部合宿



熱血子どもスポーツ塾(川内スポーツクラブ01受託事業)



スポーツフェスタ in 薩摩川内「第1回グラウンド・ゴルフ大会」

施策体系

市民と
行政の
役割分担

市民

市民	主体的・継続的にスポーツ活動へ参加しましょう。 スポーツサークル等への積極的な参加や、定期的な運動の機会を作りましょう。
事業者	民間スポーツクラブのノウハウを生かして、地域に根ざしたスポーツ活動を促進しましょう。 専門家等による地域へのスポーツ指導、交流、競技力の向上、指導者及び競技者の養成に取り組みましょう。
地域・団体	地域における指導者の育成に取り組みましょう。 スポーツ活動の充実、スポーツ大会等の開催に積極的に取り組みましょう。 地域スポーツの振興と団体相互間の交流活動を推進しましょう。

行政

市民のスポーツ活動への参加を促進するとともに、各種スポーツ活動の場を提供します。

安全で安心な社会体育施設の整備、競技スポーツの振興、指導者養成を支援します。

スポーツ基本法に基づく、薩摩川内市スポーツ推進計画を策定し、本市の実情に即したスポーツ環境づくりを推進します。